

# ドレメ式原型を基本としたカットソーの型紙印刷システムの構築

995098 三枝 美奈子

(指導教員 速水 治夫 教授)

## 1. はじめに

被服の原型の作図作業は、知識を要し、計算や描画などに手間のかかる作業である。

そこで本研究では、ドレメ式の作図法を用いた原型を基本としたカットソーの型紙をグラフィカルにデザインおよび印刷するシステムを、大型プリンタや CAD など専門的な環境の揃っていない家庭用のコンピュータで実現できるように構築した。



図1. 完成イメージの編集画面

## 2. ドレメ式原型

作図法で型紙を作成する際、基礎となる原型である。文化式と比べ採寸箇所が多く、より細かく個人の体型にフィットする原型となる。

## 3. システム概要

本システムは、個人の体型や嗜好に合った型紙を作図・印刷するシステムである。

注文画面の原型ページで胸囲などの寸法を入力し、その他のページでデザインを選択すると、メイン画面にカットソーの完成イメージを表示する。さらに、表示したイメージに対しクリックやドラッグを行うことにより、線の加筆や変形も可能である。完成イメージの編集画面を図1に示す。

最後に印刷を選択すると、実物大の型紙を、A4サイズに収まるよう複数ページに分割して印刷する。家庭用のプリンタで利用できることが本システムの特徴である。

注文画面において、身ごろ及び袖については形と丈の長さ、えりについてはネックラインの形と、あきの深さと広さが選択できる。また、単に原型を印刷することもできる。

印刷出力では、縫製の基本的な手順に対応付けて主線の色分けし、手順および対応する色を表示した。

## 4. まとめ

型紙の作図の自動化により、計算・描画の手間は省かれ、作図の知識がなくても個人の体型に合ったオリジナルのカットソーを作ることが可能となった。

今後の課題として、より大きな型紙も扱えるようにすることや、印刷面の冗長な空白の削減、縫い代の有無を選べる機能の拡張、印刷した各ページの位置関係の表示、および、画面の見やすさの向上などが挙げられる。